

平成29年度

産業建設常任委員会 視察研修報告

期 日：平成30年2月8日(木)～9日(金)

調 査 地：青森県弘前市

調査内容：まちづくり交流課所管

- (1) 観光ガイドの育成について
(第1回観光ガイド東北大会への参加)
- (2) 弘前市歴史的風致維持向上計画について
(概要、実施事業、事業の成果など)

国見町議会

渡 辺 勝 弘 委員長 2

井 砂 善 栄 委員 3

村 上 一 委員 5

平成29年度産業建設常任委員会視察研修報告書

平成30年2月15日

国見町議会議長 東海林一樹様

国見町議会議員 渡辺勝弘

【調査内容・感想】 まちづくり交流課所管

(1) 観光ガイドの育成について(第1回観光ガイド東北大会参加)

(2) 弘前市歴史的風致維持向上計画について

初日はホテル到着後直ちに「第1回観光ガイド東北大会」参加、マグロ女子会の取り組みとして本州最北端の大間町から来た、町おこしゲリラあおぞら組 島康子氏の講演を聞いた後、各分科会に分かれ「生き活きとした地域づくり～観光ボランティアガイドの役割とは～」として設立2年目を迎える開催地の弘前観光ボランティアガイドの会の運営方法を参考事例に、観光ボランティアガイドの役割や今後の活動についてディスカッションを行った。

2日目は「雪化粧を施した洋風建築物巡り」として弘前路地裏探偵団 アパ・テ・ドラの観光案内人と共に2時間かけて、徒歩にて洋風建築物を巡った。

その後、弘前市役所に移動をして、弘前市歴史的風致維持向上計画について、計画策定の経緯や歴史的風致の観念から、国指定史跡でもある弘前公園で行なわれる重要文化財の天守・門・櫓や2,600本に及ぶ桜を背景に大正時代から続く伝統行事の説明を受けた。また、弘前ねぶた祭りは、80台もの山車が繰り出す、青森ねぶた祭りとの違いや重要無形民俗文化財に指定されている建物や歴史的建造物が多く立ち並ぶ市街地とお囃子が一体となって練り歩く伝統行事になっている。

弘前市は平成21年から10年間の計画期間がまもなく終了を迎えるが、さまざまな課題に対する取り組みがあり、景観計画が施行されたことにより景観重要建造物の支援措置が不十分である。当町においても今後の展望として歴史的建造物や歴史資源は一度失えば取り戻すことは困難になる。かけがえのない資産、建造物を次世代に継承するために、歴史的建造物の保全を核として事業展開を考えなくてはならない。併せて、1つの建造物を見るのではなく、建造物を含めた地域全体での考え方も必要ではないかと考える。

以上

平成29年度産業建設常任委員会視察研修報告書

平成30年2月21日

国見町議会議長 東海林一樹様

国見町議会議員 井砂善榮

【調査内容】 まちづくり交流課所管

(1) 観光ガイドの育成について(第1回観光ガイド東北大会参加)

と き：平成30年2月8日～9日 午後1時より～

と ころ：青森県弘前市 ホテルニューキャッスル曙の間

参加県：東北6県+長崎県 計7県 (参加人数：122名)

○基調講演 講師：高田公生氏 (国土交通省東北運輸局観光部長)

演題「東北の観光政策の取組」

- I. 観光の現状と意義
- II. 明日の日本を支える観光ビジョン
- III. 観光振興の取組

東北全体としての効果的なプロモーションの方向性

復興・創世期間後を見据えた東北としての観光資源の姿やあり方

オリンピック・パラリンピック開催等に向けた東北としての観光客の受入体制の整備

東北産業に携わる担い手

東北観光復興対策交付金

※思う点として、東日本大震災の復興と国内外からの風評被害が根強く残る現状であり、今後は広域観光周遊ルート形成と地域の人が主役となった体験型交流村会の創出、東北の魅力を国内外に再発信する取り組み等、地域の自然・歴史文化・食等の資源を活かした観光地をめざす必要がある。

○基調講演 講師 島康子氏

演題「大間町マグロ女子会の取り組み 津軽海峡圏の連携・発信と創造」

平成10年にUターンし、さびれた大間町を元気にしようと努力、平成12年まちおこしゲリラ集団「あおぞら組」を結成。面白がる心で地域を元気にする試みを行っている。13年から「大間やるぞ会」の副会長として「朝やけ夕やげ横やげ～大間超マグロ祭り」を企画実行。「マグロを生かしマグロを超える」まちづくりに取り組んできた。25年にYプロジェクト株式会社設立。26年に道南と青森県の女性と連携して「津軽海峡マグロ女子会」を立ち上げた。27年みなとまちづくりマイスター(一般社団法人ウォーターフロント協会)に認定された。

マグロ女子会は、津軽海峡を結ぶ函館港と大間港との連絡船フェリー入港時出港時に合わせて大漁旗を振り続け、初めは、4～5人であったが10人、20人と増

え今では、90人のメンバーである。連絡船廃止論が出た時にも、マグロ女子会と地域全体が連絡船復活に導き、新造船就航に成功し、さびれた田舎町を地域全体で盛り上げた。まさにマグロの大間町を創生事業と共々まちおこしマグロ女子会である。

○第1分科会に参加

テーマ「生き活きとした地域づくり ～観光ボランティアガイドの役割とは～」

弘前ボランティアとして発表。

春には弘前桜まつり、夏弘前ねぷたまつり、秋菊まつり、冬お城の雪灯籠まつりと四季を通じた弘前市の城下町ならではのイベントが盛りだくさんある。当初はボランティア200人程であったが年々減少し、問題点として無料か有料かである。

行政の支援が不可欠で、長く続けていくようには無料と有料を半分に仕分けして、続ける方法、各参加した代表者からは無料では無理との意見が多かった。

総じてボランティアと言えども、ボランティア活動で企業、観光地にまつわる城、神社、仏閣、出店、商店街、利益をこうむる人々に対し、無料ボランティアでは？ボランティアの方々もガソリン代、昼食代、お茶代と経費もかかる。まちおこしに老身に鞭を打ち地域に貢献するの方々に対し行政と前に述べた方々が最大限の支援が必要である。

○弘前市：国選定弘前市仲町伝統的建造物群保在地区を中心に市歴史的風致維持向上計画の説明

計画認定：平成22年2月4日認定 計画期間：平成21年度～平成30年度

まちおこし事業に全市民の努力がうかがえる次第であり城下町の良い点をアピールし国見町での宿場町づくりに歴史的風致に十分な資源があり、ボランティアの掘りおこしに尚一層の努力が考えられる。

以 上

平成29年度産業建設常任委員会視察研修報告書

平成30年2月19日

国見町議会議長 東海林一樹様

国見町議会議員 村上 一

【調査内容】 まちづくり交流課所管

(1) 観光ガイドの育成について(第1回観光ガイド東北大会参加)

- 東北の観光政策の取り組み 高田公生氏（東北運輸局観光部長）
 1. 観光の現状と意義
 2. 明日の日本を支える観光ビジョン
 3. 観光振興の取り組み

訪日外国人旅行者は2869.1万人、消費額は4兆416億円（H29）。
中国からの訪日が一番多い。

今後、観光産業を革新し国際競争力を高め、我が国の基幹産業に魅力ある地域の売り込み方やおもてなしに意義がある。

- マグロ女子会の取り組み 島康子氏（津軽海峡マグロ女子会青森側代表）

「泳ぎ続けるマグロたちの挑戦」と題し、青森県と北海道道南地域の女性で構成されている「通称：マグ女」。島さんは都会暮らしを経て地元大間にUターンしてきた後、まちおこしゲリラ活動として最初に取り組んだ、大漁旗でのフェリー歓迎活動を紹介した。また、「自慢の前に相手を褒めろ」というマグ女の掟を紹介。小さい市町村は単独では生き残れない。エリア全体が運命共同体としていい意味で競争し、手を結んでいこうと活動している。

- 分科会 多様化するツーリズム～地域全員総つ観光ガイド時代へ
主に観光ガイドはボランティアだが、有料・無料について討議された。

(2) 弘前市歴史的風致維持向上計画について

冬の津軽の魅力を詰め込んだ4コースに分かれてエクスカージョンが行われ、弘前観光ガイドの案内で歴史的建造物を2時間にわたり散策。その後に弘前市役所を訪問し、旧弘前藩諸士武家住居や旧笹森家住宅を視察。

【感想】

今回、弘前を中心とした観光を視察し、津軽地方には特有な文化があり、四季を通じてねふた等の祭りやイベントが開催されており、歴史的建造物も多く観光ガイドの役割も大きいと感じた。

国見町でも義経まつりを始め、各地区に歴史的建造物があり、今後新たな掘り起こしを図り、付加価値をつけてアピールするに十分価値があると考えられる。観光ガイドの役割も重要になり、方言を大切にとらえていくことも大切だと思う。

以上